

タイトル「技術者のたまご」

神奈川県立商工高等学校 総合技術科（電気系）2 学年

氏名：福田 心

「電気の勉強って難しそう。」

電気はどのようなことをするのか、目に見えないからどんなものか分からない、複雑で難しそう、こんなマイナスな偏見を持っていました。でも違いました。電気の世界は思った以上にものすごく面白いものでした。電気に興味を持ったのは中学生になって間もない頃のことです。中学校から技術という科目を知りました、「難しそう、どんなことをするんだろう？」そんな疑問を残したまま、当時授業ではラジオ製作をしました。作業前は、「えっ、中学生でもラジオって作れるの？」と思っていました。完成後、本当に音が出るのかと半信半疑でしたが、無事動作しました。音楽が大好きだった私は「自分で一生懸命作ったラジオから大好きな音楽が流れるなんて。」そんな感動と共に、よく考えてみたら「電気が音に変わるって不思議だな。」「電波で音を送るって凄いな。」と思いました。他にも身近にある電気を想像すると、照明などの光、家電製品や交通機関の動力源、携帯電話などの電波通信、スピーカーやゲーム機などの音。考えたらキリがないですが、電気は目に見えないし、普段から強く意識しないため気づきませんが、色んな形に姿を変えて、身近にひっそりと存在してたんだと改めて実感しました。そしてこの経験から、私は電気に興味を持ち電気科のある高校に入学しました。私が通っている高校は、商業科と技術科がある学校ですが、でも実際に通ってみると私の学年の技術科の女性は私一人でした。元々工業高校は女性が少ないという印象はありましたが、そこで中でも電気科の女性は少ないことを初めて知りました。なぜ少ないか調べてみると、学校も職場も女性が少ないから、また、そもそも電気の学科や職業が知られていないから、力仕事が多そうだからなどがありました。確かに入学前は私も同じ考えや不安を持っていました。そして現実には、工業や電気科に女性は少なく、珍しいとか、変だとか、偏見を持たれ疎外感を感じる節がありました。でも実際電気の世界に入ってみると、時に電気の勉強は複雑で難しいと思うこともありますが、実習などは中学校の理科の授業でやったような、乾電池を使った電気の実験の延長のような感覚で、とても楽しいです。先程のラジオ制作の話のように電気工作などは力作業でもありません。女性でも出来ることはあります。これらを踏まえて今、電気は私たちの生活に必要不可欠であり、当たり前存在ですが、そこには沢山の電気技術者のおかげでこの電気の技術が生かされています。そんなたくさん技術が他にもどのような技術が使われているのか、私はまだまだ学び途中の技術者のたまごです。そして女性技術者が増えるためには女性も過ごしやすい職場や学校的环境を作り、興味を持ってもらい安心してもらえるような情報発信が増えるのが一番だと思います。現在は電気を繋げてもらう立場ですが、今度は自分が社会に電気を繋げ、未来の生活を豊かで楽しいものにするために、将来は電気関連の仕事に携わり、一人前の電気技術者になりたいと考えています。